

私は、40歳で保育士になり、
認可保育園、学童保育、認可外保育園で10年を過ごした後、
私的事情により保育現場をやむをえず去ることになりました。
その後、別の仕事を始め、環境にも恵まれ楽しい日々ではありましたが、
保育から離れた寂しさや虚しさはずっと心の中から消えませんでした。

いつかまた子どもと関わればなあと思いながら毎日を過ごしていたとき、
新しく開園する保育園の園長をやってくれないか？との話がやってきました。
新しく始まると言っても、
いつから始まるのかまだわからないような状況でしたので、
やはり、ただ待っているだけでなく、何かしよう！と思い立ったのです。

自分には共稼ぎで6人の子宝に恵まれ、妊娠、出産、授乳以外は全てやってきた
父ちゃんとしての経験がある。足かけ10年の保育現場での経験もある。
そこで、
机上の空論だけでなく、
自分の心とカラダで感じ、知ってきた経験を生かした育児教室を開いて
少しでも子育てにわくわくする気持ちを届けよう！との思いから、
「わくわく保育倶楽部」をスタートしました。

住宅会社の展示場を無償で貸していただき、月2回の保育塾からスタート。
その後、何度か場所を変え2010年3月に現在の糸島へと移住。
室内中心の内容から
自然のなかを遊びまわることが主体とした保育塾へと変わっていきました。
このときも、まだ本業は別にありましたので、
自分が60歳になって子育てがひと段落したら、
こんな自然豊かな土地で楽しく遊びまわる保育園ができたらいいなあ・・・と
ぼんやり夢描く日々を過ごしていました。

そんなある日、大転機が訪れました。
なんと本業である仕事先から業務終了を告げられてしまったのです。
事実上のリストラ。う～ん、糸島で何か別の仕事を探さなくては！？と悩んでいた時に
1つのチャンスが舞い込んできました。

**「実は、正人さんに保育園を開いてほしいお母さんがいるんよ。
どうせ仕事を変えるなら保育園をやってみたら？」**

と、妻からの一言。

・・・・・・・・・・。

自分で保育園を作る！？ 60歳で・・・と、ぼんやり描いていた夢が、「今！？」戸惑う自分とは裏腹に保育園への話は盛り上げていきました。試しにやってみた体験会はなんと参加者が84名も！もうこれはやるしかない！と勢いに乗って、2012年10月1日わくわく子どもえん開演を決め手本格的に準備が始まりました。

開えんにあたって1番の問題は「えん舎」でした。建物を建てる資金なし、場所もない、どうせ整えられた環境はつまらないと思っているし・・・とりあえず雨風さえしのげればいいよね。そうだ！キャンプ用のテント！！このアイディアにスタッフも大賛成。子ども達の反応を楽しみにしながら、えん舎の準備も完了しました。えん舎も出来た。方針も料金も決まった。保育者の待遇も何とか出来た。後はえん児を待つだけ・・・と、準備は整ってきましたが、1つ重大なことが残っていました。

それは、自分自身の覚悟。10年間安い給料で時間に余裕もなく体力だけを消耗する僕を支えてくれた家族にまた我慢を強いてしまうかもしれない。始めるからには簡単に引き下がれない。やれるんだろうか・・・でも、たくさんの方が期待してくれている。今度は、自分で、自分の描いた理想の場所をつくるんだ。あとは自分の覚悟だけ！！！！

その覚悟を確かめるために、生まれて初めて1人登山をしてきました。みんなでワイワイ楽しむことが好きな僕にとって、1人孤独と向き合いながら一步一步進んでゆく。たかが600メートル未満の小さな山、名前は十坊山。夢に向かって跳ぶ今の僕には丁度良い。自宅を出発して4時間、自分と向き合う最高の時間を過ごし、僕は覚悟を決めて帰ってきたのです。

開園の日2012年10月1日快晴 えん児3名 スタッフ川口正人 ほか1名
入えん式はテントを建てるところから始まり、記念の桜の木の植樹、初めての作戦会議、初めてのお昼ごはん、小さいながらも夢にあふれるスタートでした。テントは子どもたちの遊び心をくすぐる場所になりました。

スタートからはや4年、
今ではえん児も20名を越え【2016年3月現在】、
日々、喜怒哀楽を味わいながら、子ども達との暮らしを続けています。

僕の好きな言葉にアメリカの詩人ホイットマンの言葉があります。
「さあ出発しよう！悪戦苦闘を突き抜けて、
決められた決勝点にはたどり着かなくてはいけないのだから！」
この言葉を胸に、これからもどんな困難が待っていようと前に進みます。